

Oracle9i Lite for Microsoft Windows

リリース・ノート

リリース 5.0.2.9

2003 年 12 月

部品番号 : J08237-01

Oracle9i Lite for Microsoft Windows リリース・ノート, リリース 5.0.2.9

部品番号 : J08237-01

Copyright © 2003, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム (ソフトウェアおよびドキュメントを含む) の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されております。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation (米国オラクル) または日本オラクル株式会社 (日本オラクル) を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation (米国オラクル) およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的のみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	iii
リリース・ノート構成について	iii
マニュアルに記載されている名称について	iii
英語オンライン・マニュアルの扱いについて	iii
最新情報の入手について	iii
1 日本での追記事項	
パッチの適用	1-2
Oracle9i Lite リリース 5.0.2.9 NLS パッチの適用手順	1-2
はじめに	1-2
パッチのインストール	1-2
不具合の修正	1-4
Windows CE エミュレータ・バイナリの未サポート	1-4
mSync.exe のエラーメッセージ	1-4
Oracle9iAS および Apache 使用時の Mobile サーバーのトレースの出力	1-4
Mobile サーバーのトレースの出力先がリモートの場合の注意点	1-5
「WinCE/PPC」でのデフォルト・レプリケーション・ストアとしてのストレージ・カード	1-5
Win32 用 Mobile クライアントの POLITE.INI の NLS パラメータ	1-5
BC4J チュートリアルでの Oracle9i JDeveloper	1-5
Oracle9iAS 用の Mobile サーバー・モジュールの構成	1-5
Oracle Internet Directory (OID) でユーザー管理を行う場合の注意点	1-7
Oracle9iAS と同一の ORACLE_HOME にインストールする場合の注意点	1-7
Oracle JDBC ドライバリリース 9.0.1.4 で Mobile サーバーを使用する場合の注意点	1-8
Oracle Internet Directory (OID) へのユーザーの移行	1-8
EPOC クライアントの非サポート	1-9
Symbian OS 6.0 クライアントの非サポート	1-9
Palm 用 Mobile クライアントの非サポート	1-9
Branch Office の非サポート	1-9
Mobile クライアントのインストール CD 作成時の注意点	1-9
AQ Lite の非サポート	1-9
Windows CE クライアントでサポートされる CPU	1-9
Pocket PC で mSync.exe を使用して同期する際の注意点	1-9
Web-to-Go クライアントのインストール時に作成されるショートカットの問題	1-10
2 Oracle 9i Lite for Microsoft Windows リリース・ノート, リリース 5.0.2.9	
新機能	2-2
ADO.NET	2-2

パッケージ・ウィザードでのビュー・サポート	2-2
Pocket PC 2003/XScale の動作保証	2-2
Windows XP Tablet PC の動作保証	2-2
Real Application Clusters (RAC) の動作保証	2-2
ADO.NET のサポート	2-2
デモの実行	2-2
パッケージ	2-3
データベースへの接続	2-3
トランザクションの管理	2-3
IDbCommand オブジェクトの作成	2-4
プリコンパイルされた SQL 文	2-4
パラメータ	2-4
スレッド・セーフティ	2-4
同期	2-4
制限事項	2-5
ベース・オブジェクト・タイプとしてのビューの追加	2-6
新規スナップショットの作成	2-7
スナップショットの索引の作成	2-9
スナップショットのインポート	2-10
スナップショットの編集	2-11
eMbedded Visual Basic (eVB) の不具合の回避策	2-13
検索条件の okCreateIterator 回避策	2-13
Palm 上での HotSync による HTTP トランスポートの構成	2-13
Windows CE アプリケーション・ファイルのダウンロード	2-13
Pocket PC 2003 用モバイル・クライアント	2-13
修正済の不具合	2-13

はじめに

リリース・ノートの構成について

このリリース・ノートの第2章以降は英語リリース・ノートの翻訳版です。日本での追記事項については、第1章を参照してください。

マニュアルに記載されている名称について

Oracle9i Lite 関連マニュアルは、英語版を翻訳しているため、マニュアル中で参照されている情報には、日本では提供されていないものも含まれます。

- インターネット URL
- マニュアル名
- ソフトウェア名

英語オンライン・マニュアルの扱いについて

CD 媒体上の英語のマニュアルと同一のマニュアルが日本語で提供されている場合は、日本語版を参照してください。

最新情報の入手について

日本オラクルでは、インターネット開発者向けのあらゆる技術リソースを、24 時間 365 日提供するコミュニティ・サイト OTN-J (Oracle Technology Network Japan) を運営しています。OTN-J では、最新の技術情報、オンライン・マニュアル、ソフトウェア・コンポーネントなどを、無料で入手できます。

<http://otn.oracle.co.jp/>

日本での追記事項

以下の項目について説明します。

- パッチの適用
- Windows CE エミュレータ・バイナリの未サポート
- mSync.exe のエラーメッセージ
- Oracle9iAS および Apache 使用時の Mobile サーバーのトレースの出力
- Mobile サーバーのトレースの出力先がリモートの場合の注意点
- 「WinCE/PPC」でのデフォルト・レプリケーション・ストアとしてのストレージ・カード
- Win32 用 Mobile クライアントの POLITE.INI の NLS パラメータ
- BC4J チュートリアルでの Oracle9i JDeveloper
- Oracle9iAS 用の Mobile サーバー・モジュールの構成
- Oracle Internet Directory (OID) でユーザー管理を行う場合の注意点
- Oracle9iAS と同一の ORACLE_HOME にインストールする場合の注意点
- Oracle JDBC ドライバリリース 9.0.1.4 で Mobile サーバーを使用する場合の注意点
- Oracle Internet Directory (OID) へのユーザーの移行
- Symbian OS 6.0 クライアントの非サポート
- Palm 用 Mobile クライアントの非サポート
- Branch Office の非サポート
- Mobile クライアントのインストール CD 作成時の注意点
- AQ Lite の非サポート
- Windows CE クライアントでサポートされる CPU
- Pocket PC で mSync.exe を使用して同期する際の注意点
- Web-to-Go クライアントのインストール時に作成されるショートカットの問題

パッチの適用

Oracle9i Lite リリース 5.0.2 のインストールを実行した後、必ずリリース 5.0.2.9 NLS パッチをインストールしてからご使用ください。

注意： この NLS パッチをインストールする前には必ず「Oracle9i Lite リリース 5.0.2.9 NLS パッチの適用手順」をお読みください。

Oracle9i Lite リリース 5.0.2.9 NLS パッチの適用手順

はじめに

Oracle9i Lite リリース 5.0.2.9 NLS はリリース 5.0.2 上に適用されるパッチです。

パッチのインストール

注意： パッチを適用する前に Mobile サーバーおよび全てのアプリケーションを停止してください。

このパッチをインストールするには以下の 3 通りあります。

a. パッチの完全インストール

コマンドプロンプトで次のように入力します。

```
cd <5.0.2.9_nls>%release
```

<5.0.2.9_nls> はパッチを展開したディレクトリ名です。

使用法 1:

```
perl <スクリプト名> <引数 1>
```

<引数 1> は必須です。全ての引数はスペースで区切られる必要があります。

スクリプト名 : install.pl

引数 1 : Oracle Lite 5.0.2.0.0 をインストールした Oracle_Home

例:

```
perl install.pl d:%oracle_home
```

注意： ユーザーに「リポジトリのアップグレードを行うかどうか?」という内容のプロンプトが返ります。

```
Do You want to upgrade the repository.  
Please enter 'Y' or 'N'
```

もし「Y」を選択した場合、OracleDB の SYSTEM ユーザーのパスワード、Mobile サーバー・ユーザー ID およびパスワードを入力する必要があります。

次にパッチを適用する言語を選択するためのプロンプトがユーザーに返ります。

```
Which Language Patch do you want to apply  
1. Japanese (ja)  
2. Korean (ko)  
3. Simplified Chinese (zhs)  
4. Taiwanese (zht)  
5. Spanish (es)  
6. Deutsch (de)  
7. French (fr)  
8. Italian (it)  
9. Portugese (ptb)
```



```
Please choose from above
Enter 1 || 2 || 3 || 4 || 5 || 6 || 7 || 8 || 9
```

ここでは「1. Japanese (ja)」を選択します。

b. Mobile サーバー用パッチのみのインストール

コマンドプロンプトで次のように入力します。

```
cd <5.0.2.9_nls>%release
```

<5.0.2.9_nls> はパッチを展開したディレクトリ名です。

使用法 1:

```
perl <スクリプト名> <引数 1> <引数 2>
```

<引数 1> は必須です。全ての引数はスペースで区切られる必要があります。

スクリプト名 : install.pl

引数 1 : Oracle Lite 5.0.2.0.0 をインストールした Oracle_Home

引数 2 : -mobileserver

例:

```
perl install.pl d:%oracle_home -mobileserver
```

注意: ユーザーに「リポジトリのアップグレードを行うかどうか?」という内容のプロンプトが返ります。

```
Do You want to upgrade the repository.
Please enter 'Y' or 'N'
```

もし「Y」を選択した場合、OracleDB の SYSTEM ユーザーのパスワード、Mobile サーバー・ユーザー ID およびパスワードを入力する必要があります。

c. Mobile SDK 用パッチのみのインストール

コマンドプロンプトで次のように入力します。

```
cd <5.0.2.9_nls>%release
```

<5.0.2.9_nls> はパッチを展開したディレクトリ名です。

使用法 1:

```
perl <スクリプト名> <引数 1> <引数 2>
```

<引数 1> は必須です。全ての引数はスペースで区切られる必要があります。

スクリプト名 : install.pl

引数 1 : Oracle Lite 5.0.2.0.0 をインストールした Oracle_Home

引数 2 : -mobilesdk

例:

```
perl install.pl d:%oracle_home -mobilesdk
```

注意: パッチを適用する言語を選択するためのプロンプトがユーザーに返ります。

```
Which Language Patch do you want to apply
```

1. Japanese (ja)
2. Korean (ko)
3. Simplified Chinese (zhs)
4. Taiwanese (zht)
5. Spanish (es)

```
6. Deutsch (de)
7. French (fr)
8. Italian (it)
9. Portugese (ptb)
Please choose from above
Enter 1|| 2 || 3 ||4 ||5 || 6 || 7 || 8 || 9
```

ここでは「1. Japanese (ja)」を選択します。

不具合の修正

注意：

インストール中に以下のような問い合わせがあった場合、「F」を指定してください。

```
Specify a file name or directory name on the target
(F = file, D = directory) ?
```

例：

```
Does D:\oracle_home\mobile\sdk\winc3\wince212\olitejdbc40.jar specify a file name or
directory name on the target
(F = file, D = directory)? F
```

注意：

- a. パッチ適用後に Web-to-Go を除く全ての Mobile クライアント (win32、wince) を再インストールする必要があります。
- b. Oracle9i Lite リリース 5.0.1.0.0 からの移行を行う場合は以下 3 つのステップを実行する必要があります。
 1. CD から Oracle9i Lite リリース 5.0.2.0.0 のインストールを行います。インストーラで「Mobile サーバー・リポジトリをインストールしますか？」の問い合わせで「No」を選択します。
 2. (Oracle9i Lite のインストール完了後に) 5.0.2.9 パッチのインストールを行います。パッチのインストール中に「リポジトリのアップグレードを行いますか？」の問い合わせで「No」を選択します。
 3. パッチのインストール完了後に repwizard.bat を実行し、リポジトリ・ウィザードを手動で起動します。repwizard.bat は <ORACLE_HOME>\mobile\server\admin ディレクトリにあります。ウィザードに従って適切な情報を入力します。

以上によりリポジトリの移行と最新ファイルのインストールが完了します。

Windows CE エミュレータ・バイナリの未サポート

日本語環境ではデスクトップ上の Windows CE エミュレータにおける Oracle9i Lite アプリケーション開発をサポートするための ASCII Windows CE/Pocket PC x86em バイナリは含まれません。

mSync.exe のエラーメッセージ

mSync.exe を使用した際に、正常に同期が終了しなかったとき、エラーメッセージが正しく表示されません。エラーコードからマニュアル『Oracle9i Lite メッセージ・リファレンス』を参照してエラー内容を確認してください。

Oracle9iAS および Apache 使用時の Mobile サーバーのトレースの出力

Oracle9iAS および Apache 上で Mobile サーバーを起動する場合に、トレースの出力先を「コンソール」に設定してもトレースを出力しません。トレースの出力先を「ファイル」または「リモート」に設定してください。

Mobile サーバーのトレースの出力先がリモートの場合の注意点

Mobile サーバーのトレースの出力先を「リモート」にした際、Mobile サーバーを起動する前にトレース・モニターのホスト側で wsh を起動し、ロギングを開始しておく必要があります。wsh を起動しない状態で Mobile サーバーを起動するとログオン・ページが正常に表示されません。

「WinCE/PPC」でのデフォルト・レプリケーション・ストアとしてのストレージ・カード

ストレージ・カードが英語表記で「Storage Card」としてデバイスに認識されたときはデフォルトのストアとして設定されますが、「メモリ カード」（実際は半角カナ表記）としてデバイスに認識されたときは ¥Oracle をデフォルトのストアと設定されます。

デフォルトのストアを「メモリ カード」（実際は半角カナ表記）に設定するには、Mobile クライアントをインストールした直後に ¥Oracle¥polite.txt に DataDirectory パラメータを設定します。

ディレクトリ名に「¥」または「/」を追加します。次に例を示します。

```
DataDirectory=¥メモリ カード¥
DataDirectory=/メモリ カード/
```

Win32 用 Mobile クライアントの POLITE.INI の NLS パラメータ

Win32 用 Mobile クライアント使用時に限り、POLITE.INI の NLS_LANGUAGE および NLS_LOCALE パラメータの値が ENGLISH に設定されます。Win32 用 Mobile クライアントをインストールする前に <ORACLE_HOME>¥Mobile¥Server¥Repository¥Setup¥win32.ini を以下のように修正します。

修正前

```
[INI]
POLITE.INI
All Database: NLS_LANGUAGE = ENGLISH
All Database: NLS_LOCALE = ENGLISH
```

修正後

```
[INI]
POLITE.INI
All Database: NLS_LANGUAGE = JAPANESE
All Database: NLS_LOCALE = JAPANESE
```

BC4J チュートリアルでの Oracle9i JDeveloper

『Web-to-Go 開発者ガイド』の 6 章「BC4J のチュートリアル」で記載されている Oracle9i JDeveloper の画面および説明が使用可能なバージョンのものと異なります。

Oracle9iAS 用の Mobile サーバー・モジュールの構成

この項の情報は『Oracle9i Lite for WindowsNT/2000/XP インストールレーションおよび構成ガイド』の 2.1.1 に代わるものです。

Oracle9iAS 上で Mobile サーバーをモジュールとして実行できます。そのためには、Oracle9iAS をインストールおよび構成する必要があります。Oracle9iAS リリース 1.0.2.2.0 上に Mobile サーバーをインストールする場合は、手順 2～6 をスキップして、手順 1 および手順 7 を実行する必要があります。Mobile サーバーのインスタンスを Oracle9iAS リリース 2 以上で実行するように構成するには、手順を 1～7 を実行する必要があります。

1. Oracle9iAS の構成ファイルを変更して、Oracle9i Application Server 用の Mobile サーバー・モジュールを Oracle9iAS に追加します。構成ファイルは、デフォルトでは次の場所にあります。

```
<Oracle9iAS_DIR>¥Apache¥Apache¥conf¥httpd.conf
```

<Oracle9iAS_DIR> とは、Oracle9iAS をインストールしたディレクトリです。たとえば、Oracle9iAS を次の場所にインストールしたとします。

```
¥Program Files¥Oracle9iAS
```

この場合、構成ファイルのフルパスは次のようになります。

```
¥Program Files¥Oracle9iAS¥Apache¥Apache¥conf¥httpd.conf
```

Oracle9iAS の構成ファイルの末尾に次の行を追加して、Oracle9i Application Server 用の Mobile サーバー・モジュールを追加します。

```
include "<ORACLE_HOME>¥mobile¥server¥bin¥wtgias.conf"
```

これは、wtgias.conf ファイルを指します。これは、Oracle9iAS 内にある Oracle9i Application Server 用の Mobile サーバー・モジュールのロードに使用する構成ファイルです。

2. <Oracle9iAS_DIR>¥opmn¥conf¥opmn.xml ファイルをオープンして、環境変数 (PATH、CLASSPATH、NLS_LANG など) を追加します。環境変数 NLS_LANG の値を次の例に示すとおり、「JAPANESE_JAPAN.UTF8」に設定します。次に例を示します。

変更前

```
<ohs gid="HTTP Server"/>
```

変更後

```
<ohs gid="HTTP Server" maxRetry="3">
  <start-mode mode="ssl"/>
  <environment>
    <prop name="PATH" value="<Oracle9iAS_DIR>\jdk\bin;<Oracle9iAS_DIR>¥jdk¥jre¥bin;<Oracle9iAS_DIR>¥bin"/>
    <prop name="CLASSPATH" value="<Oracle9iAS_DIR>¥jdbc¥lib¥nls_charset12.zip;<Oracle9iAS_DIR>¥jlib¥jndi.jar;<Oracle9iAS_DIR>¥jlib¥repository.jar"/>
    <prop name="NLS_LANG" value="JAPANESE_JAPAN.UTF8"/>
  </environment>
</ohs>
```

3. <Oracle9iAS_DIR>¥config¥jazn-data.xml ファイルをオープンして、webtogo.jar を検索します。次の行の Mobile¥Server は先頭が必ず大文字になるようにします。全て小文字に変更しないでください。次に例を示します。

```
<url>file:<ORACLE_HOME>¥Mobile¥Server¥bin¥webtogo.jar<¥url>
```

次に <permission> セクションに行き、次に示されたように <name>getOIDConnect</name> を <name>getSSOConnect</name> に変更します。

```
<permissions>
  <permission>
    <class>oracle.ias.repository.schemaimpl.CheckRepositoryPermission</class>
    <name>getSSOConnect</name>
  </permission>
```

4. <Oracle9iAS_DIR>¥Apache¥Apache¥conf¥mod_osso.conf ファイルをオープンして、次の行を追加します。

```
<Location /webtogo/WLTop>
  require valid-user
  AuthType Basic
</Location>
```

mod.osso.conf ファイルは、次のようになります。

```
LoadModule osso_module modules/ApacheModuleOSSO.DLL
<IfModule mod_osso.c>
  OsoIpCheck on
```

```

OssoIdleTimeout off
OssoConfigFile <Oracle9iAS_DIR>%Apache%Apache%conf%osso%osso.conf
#
# Insert Protected Resources: (see Notes below for how to protect resources)
# Mobile サーバーの構成
#-----
#
# Notes
#
#-----
#
# 1. Here's what you need to add to protect a resource,
# e.g. <ApacheServerRoot>/htdocs/private:
<Location /webtogo/WLTop>
    require valid-user
    AuthType Basic
</Location>
<Location /private>
    require valid-user
    AuthType Basic
</Location>
</IfModule>

```

5. <ORACLE_HOME>%Mobile%Server%bin%webtogo.ora ファイルをオープンして IAS_MODE パラメータの値を YES に設定します。
6. Oracle Internet Directory (OID) へのユーザーの移行を行います。本リリースノートの「Oracle Internet Directory (OID) へのユーザーの移行」項を参照してください。
7. Oracle9iAS を起動します。

Oracle9iAS リリース 1.0.2.2.0 では「スタート」メニューから「プログラム」「Oracle9i Application Server」「Oracle HTTP Server」「Oracle HTTP Server の起動」の順番に選択するか、Windows サービス上で「Oracle HTTP Server」を起動することで、Oracle9iAS を起動します。

Oracle9iAS がすでに実行中の場合は、「スタート」メニューから「プログラム」「Oracle9i Application Server」「Oracle HTTP Server」「Oracle HTTP Server の停止」の順番に選択するか、Windows サービス上で「Oracle HTTP Server」を停止することで Oracle9iAS を一度停止してから再起動します。

Oracle9iAS リリース 2 以上では Oracle9iAS の Oracle Enterprise Manager Web サイト (<http://<server>:1810/>) へログインし、該当するインスタンス全体の再起動を行います。

Oracle Internet Directory (OID) でユーザー管理を行う場合の注意点

Oracle Internet Directory (OID) でユーザー管理を行う場合には、Oracle 9i Lite R5.0.2 を Oracle9iAS と同一の ORACLE_HOME にインストールする必要があります。

Oracle9iAS と同一の ORACLE_HOME にインストールする場合の注意点

Oracle9i Lite R5.0.2 を Oracle9iAS と同一の ORACLE_HOME にインストールすると、Mobile サーバー・リポジトリへの接続情報が自動的に作成されないため、リポジトリの作成に失敗します。インストール終了後に %ORACLE_HOME%\network\admin%tnsnames.ora ファイルを作成して (すでに存在する場合は追加)

```

WEBTOGO.WORLD =
  (DESCRIPTION =
    (ADDRESS_LIST =
      (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP) (HOST = データベースのホスト名) (PORT = リスナーのポート番号))
    )
    (CONNECT_DATA =
      (SERVICE_NAME = データベースの Net サービス名)
    )
  )

```

というエントリを手動で作成した後に %ORACLE_HOME%\Mobile¥Server¥admin¥repwizard.bat を実行してリポジトリ・ウィザードを再実行してください。

Oracle JDBC ドライバ リリース 9.0.1.4 で Mobile サーバーを使用する場合の注意点

Mobile サーバーをインストールした ORACLE_HOME に含まれる JDBC ドライバがリリース 9.0.1.4 の場合、Mobile サーバーの同期時および MGP 起動時に以下のエラーが発生します。

```
java.sql.SQLException: 非公開の文です。
```

この現象を回避するには %ORACLE_HOME%\Mobile¥Server¥bin¥webtogo.ora ファイルの [Consolidator] セクションに以下の一行を追加してください。

```
STMT_CACHE_SIZE=-1
```

Oracle Internet Directory (OID) へのユーザーの移行

この項の情報は『Oracle9i Lite for Windows NT/2000/XP インストール・ガイドおよび構成ガイド リリース 5.0.2』の 3.5 「Oracle Internet Directory (OID) へのユーザーの移行」に代わるものです。

Oracle9iAS 上にインストールされた Mobile Server のインスタンスを移行する際、Oracle Internet Directory (OID) に存在していないすべてのユーザーを移行する必要があります。oiduser と呼ばれるツールが、<ORACLE_HOME>\mobile¥server¥bin にあります。これを使用すると、次の手順を実行した際、既存の Mobile Server ユーザーを Mobile Server レポジトリから OID へ移行し、ユーザー定義の共通パスワードを設定できます。

1. Mobile サーバールポジトリ内の管理者ユーザーの表示名「管理者」をシングルバイトに変更します。コマンドラインから次を入力します。

```
sqlplus <mobile server repository user name>/<password>@webtogo.world
```

たとえばデフォルト設定は次のようになります。

```
sqlplus mobileadmin/manager@webtogo.world
```

SQL*Plus 上で以下の SQL 文を実行します。

```
update users set display_name='Administrator' where id=1;
commit;
exit
```

2. OIDUSER.BAT を実行する前に以下の環境変数を設定します。コマンドラインから次を入力します。

```
set ORACLE_HOME=<Oracle_Home>
```

3. コマンドラインから、次を入力して OIDUSER.BAT を実行します。

```
oiduser.bat <Oracle_Home> <MobileServer Repository user> <MobileServer Repository
password> -P <common password> <oid port> <oid hostname> <oid password>
```

たとえばデフォルト設定は次のようになります。

```
oiduser.bat <Oracle_Home> mobileadmin manager -P <common password> 4032 <oid hostname>
welcome
```

4. 生成された LDAP1.bat ファイルをオープンし、dc=us の値を jp に変更します。

変更前：例

```
ldapadd -h <oid hostname> -p <oid port> -D cn=orcladmin,cn=Users,dc=us,dc=oracle,dc=com
-w <common password> -f oiduserfile.Idif
```

変更後：例

```
ldapadd -h <oid hostname> -p <oid port> -D cn=orcladmin,cn=Users,dc=jp,dc=oracle,dc=com
-w <common password> -f oiduserfile.Idif
```

5. LDAP1.bat を実行します。
6. Mobile Server レポジトリからすべてのユーザーが、手順 3 で指定したパスワードと共に OID に移行されます。
7. 再度 oiduser.bat を実行します。
8. Mobile サーバーを再起動します。

EPOC クライアントの非サポート

日本語環境では EPOC クライアントはサポートされていない機能です。

Symbian OS 6.0 クライアントの非サポート

日本語環境では Symbian OS 6.0 クライアントはサポートされていない機能です。

Palm 用 Mobile クライアントの非サポート

日本語環境では Palm 用 Mobile クライアントはサポートされていない機能です。

Branch Office の非サポート

日本語環境では Branch Office はサポートされていない機能です。

Mobile クライアントのインストール CD 作成時の注意点

オフライン・インストール・ファイルのコンパイル

```
C:¥CDSETUP¥setup.exe -distribution
```

の手順を行う際には、Mobile サーバーや Mobile Development Kit を使用する際と同様、JDK1.3.1 がインストールされている環境で行う必要があります。

AQ Lite の非サポート

日本語環境では AQ Lite はサポートされていない機能です。

Windows CE クライアントでサポートされる CPU

日本語環境では Windows CE (Pocket PC/Handheld PC) でサポートされる CPU は StrongARM のみです。MIPS や SH4 等の他の CPU はサポートされません。

Windows Mobile 2003 software for Pocket PC (Pocket PC 2003) では StrongARM および XScale がサポートされます。

Pocket PC で mSync.exe を使用して同期する際の注意点

mSync.exe を使用して同期を行って「OK」で終了した後に「update_fc.exe」のウィンドウが表示されますが、「Cancel」でウィンドウを閉じてください。

Web-to-Go クライアントのインストール時に作成されるショートカットの問題

Web-to-Go クライアントをインストールすると不正なショートカットが作成されます。

- 「スタートアップ」グループに「Or アップ」
- 「Oracle9i Lite」グループに「Uninstall We」および「We」

これらのショートカットは手動で削除してください。

正しいショートカットを作成する場合は、下記ショートカットを手動で作成してください。

「スタートアップ」グループ

- %webtogo_dir%\WebToGo.exe への「Oracle Web-to-Go」ショートカット
- 「Oracle9i Lite」グループ
- %webtogo_dir%\WebToGo\webtogo.exe への「Web-to-Go」ショートカット
 - %webtogo_dir%\WebToGo\uninst.exe への「Uninstall Web-to-Go」ショートカット

Oracle 9i Lite for Microsoft Windows リリース・ノート, リリース 5.0.2.9

原典情報 : B12109-01 Oracle9i Lite for Microsoft Windows Release Notes Release 5.0.2.8.0

このマニュアルは、Oracle9i Lite for Microsoft Windows リリース 5.0.2.9 のリリース・ノートです。
内容は次のとおりです。

- [新機能](#)
- [ADO.NET のサポート](#)
- [ベース・オブジェクト・タイプとしてのビューの追加](#)
- [eMbedded Visual Basic \(eVB\) の不具合の回避策](#)
- [検索条件の okCreateliterator 回避策](#)
- [Palm 上での HotSync による HTTP トランスポートの構成](#)
- [Windows CE アプリケーション・ファイルのダウンロード](#)
- [Pocket PC 2003 用モバイル・クライアント](#)
- [修正済の不具合](#)

新機能

次の項では、このリリースの新機能について説明します。

ADO.NET

このリリースは、Windows CE デバイス上で ADO.NET をサポートします。

詳細は、このドキュメントの項「[ADO.NET のサポート](#)」を参照してください。

パッケージ・ウィザードでのビュー・サポート

「パッケージ・ウィザード」を使用して、パブリケーション・アイテムにビューを追加してから、アプリケーションをパッケージして、そのアプリケーションをパブリッシュします。

以前のリリースでは、「パッケージ・ウィザード」を使用してスナップショットを作成する際、データベースから表をインポートして行うスナップショットの作成のみがサポートされていました。このリリースでは、データベースからビューをインポートして行うスナップショットの作成もサポートされています。

詳細は、このドキュメントの項「[ベース・オブジェクト・タイプとしてのビューの追加](#)」を参照してください。

Pocket PC 2003/XScale の動作保証

XScale ベースの Pocket PC 2003 上での動作は確認済みです。

Windows XP Tablet PC の動作保証

Windows XP Tablet PC 上での動作は確認済みです。

Real Application Clusters (RAC) の動作保証

RAC 上での動作は確認済みです。

ADO.NET のサポート

この項では、Windows CE デバイス上の ADO.NET サポートについて説明します。

デモの実行

このリリースには、Oracle Lite ADO.NET プロバイダを使用した作業コードを例示するサンプル・コードのデモが付いています。デモを実行するには、次のステップを実行します。

1. .NET コンパクト・フレームワークをまだインストールしていない場合は、**netcfsetup.msi** を使用してデバイス上にインストールします。
2. Oracle Lite 5.0.2.9 をデバイス上にインストールします (たとえば、`oracle\ora90\Mobile\Sdk\wince\Pocket_PC\cabfiles` ディレクトリから **olite.us.pocket_pc.arm.CAB**)。
3. 適切なバージョンの **ClockIn.cab** をディストリビューションの `ADO\DemoCab` ディレクトリからインストールします (たとえば、**ClockIn_PPC.ARM.CAB**)。
4. ファイル・マネージャを使用して、デバイス上の `\OraCE` ディレクトリで **mSQL** を起動します。「ツール」タブで「作成」をクリックし、**POLITE** データベースとそれに対応する ODBC データ・ソースを作成します。**mSQL** を終了します。
5. ファイル・マネージャを使用して、`\Program files` ディレクトリで **ClockIn** デモを起動します。

このデモは、サービスの設置、撤去、または修理を行い、作業時間を記録するケーブル技術者のための、最小限のタイムカード・アプリケーションです。画面の下のドロップダウン・リストから作業と時間を選択し、「追加」をクリックして新しい作業項目を入力し、タイトル・バーのサマリーを更新します。既存の作業項目の行の上でクリックし、その行を削除します。別の日付に移動して、過去の作業を

確認することもできます（最初にいくつかの作業項目を作成するために、デバイス上で日付を変更します）。

ClockIn サブディレクトリで **MainForm.cs** を調べます。特に次の項目に注意してください。

1. Oracle Lite 接続の作成
2. プリコンパイルされた SQL 文の使用およびプログラム終了時のクリーンアップ
3. LiteDataAdapter を使用した非接続 ResultSet でのデータの取得および既存行の削除
4. DataGrid を使用したデータの画面表示

ADO.NET 開発について理解するために、いくつか変更を行います。

1. 重複作業項目のチェックを追加し、エラーとなることを確認します。
2. 既存の作業項目を編集する機能を追加し、行の上でクリックして任意の開始 / 終了時間および説明を加えます。
3. ClockIn への同期サポートを追加します。ClockIn 表で主キーを定義する必要があります（順序を使用します）。

自分自身のプロジェクトで Oracle Lite プロバイダを使用するには、**Oracle.Lite.Data.dll** に参照を追加します。

パッケージ

Oracle Lite ADO.Net プロバイダは、Oracle.Lite.Data 名前空間に常駐します。プログラムに關係するクラスは、LiteConnection および LiteDataAdapter の 2 つです。その他のクラスは、対応するインタフェース（たとえば、IDbCommand など）を使用して、より便利にアクセスされます。

データベースへの接続

LiteConnection のインスタンスを構成する際、ODBC データソース名を渡すことができます。次に例を示します。

```
IDBConnection conn = new Oracle.Lite.Data.LiteConnection("polite");
conn.Open();
```

より一般的なケースでは、SQLDriverConnect 用の Oracle Lite ODBC ドキュメントで説明されているように、完全な接続文字列を渡せます。次に例を示します。

```
IDBConnection conn = new Oracle.Lite.Data.LiteConnection
    ("Data Directory=/OraCE,Database=myodb");
```

空欄での接続オブジェクトを作成して、後で ConnectionString プロパティを設定することも可能です。

埋込み型データベースを使用する場合、最初に接続をオープンし、プログラム中はそのままオープンにしておくことをお勧めします。IDbCommand オブジェクトは接続が再オープンされた後も使用できますが、接続をクローズすると、その接続を使用しているすべての IDataReader もクローズされるので注意してください。

トランザクションの管理

デフォルトでは、Oracle Lite 接続は自動コミット・モードです。トランザクションを開始するには、LiteConnection オブジェクトで BeginTransaction() メソッドを使用します。戻された IDbTransaction 上の Commit または Rollback により要求されたアクションが実行され、データベースを自動コミット・モードに戻します。SQL 構文を使用して、トランザクション内のセーブポイントの設定、削除および UNDO ができます。

Oracle Lite for WindowsCE は、特定のデータベースにアクセスする 1 つのプロセスのみをサポートします。別のプロセスを接続できるようにするため、一時的に接続をクローズできます。

IDbCommand オブジェクトの作成

推奨のコマンド作成方法は、IDbCommand インタフェースの `CreateCommand()` メソッドを使用する方法です。LiteCommand には、たとえば LiteCommand (`LiteConnection conn, string cmd`) のような ADO.NET マニュアルで推奨されるコンストラクタがあります。ただし、このコンストラクタの使用は、たとえば Win32 上の ODBC プロバイダなどへのコードの移植を困難にします。他のオブジェクトを導出するために接続を作成してからインタフェース・メソッドを使用すると、コンパイル時に（または実行時に Reflection API を使用しても）プロバイダを変更することになります。

プリコンパイルされた SQL 文

新規 SQL 文の解析には、かなり時間がかかります。パフォーマンスが重視されるすべての操作について、プリコンパイルされた SQL 文を使用することが重要です。IDbCommand には明示的な `Prepare` メソッドがありますが、SQL 文は最初にも使用される際にプリコンパイルされます。Dispose のコールまたは `StatementText` プロパティの変更なしに、単にオブジェクトを繰り返し再利用してください。

パラメータ

Oracle Lite では、SQL 文の ? 文字のような ODBC スタイルのパラメータが使用されます。パラメータ名およびデータ型はドライバに無視されます。これらを使用するのはプログラマのみです。

例:

次の表を作成したとします。

```
create table t1(c1 int, c2 varchar(80), c3 data)
```

作成した表のコンテキストで、次のパラメータを使用できます。

```
IDbCommand cmd = conn.CreateCommand();
cmd.CommandText = "insert into t1 values(?,?,?);";
cmd.Parameters.Add("param1", 5);
cmd.Parameters.Add("param2", "Hello");
cmd.Parameters.Add("param3", DateTime.Now);
cmd.ExecuteNonQuery();
```

関連するクラス名は、`LiteParameter` および `LiteParameterCollection` です。

スレッド・セーフティ

スレッド・セーフなプログラムを構築するには、異なるスレッドが異なる IDbCommand および IDataReader オブジェクトを確実に使用するようにします。接続のオープンおよびクローズの場合以外は、LiteConnection と IDbTransaction メソッドを同時にコールできます。

同期

Oracle Lite ADO.Net プロバイダでは、mSync ツールの起動により、Oracle サーバー・データベースとの同期に対する基本サポートを提供します。mSync ツールのユーザー・インタフェースを使用する、また、同期を行う前にユーザーが設定の変更ができるようにするには、次のようにコールします。

```
LiteConnection.sync(false)
```

設定がすでに正しく、自動同期を行う場合は、次のようにコールします。

```
LiteConnection.sync(true)
```

特定のサーバーによる定期的同期を行うには、次のコールを使用できます。

```
LiteConnection.sync("S11U1", "manager", "myserver.mydomain.com")
```

最後に、`LiteConnection.sync("msync command line")` をコールできます。

表 1 は、認識されるコマンドライン・オプションのリストです。

表 1 コマンドライン・オプション

オプション	説明
username/password@server[:port] [@proxy:port]	指定したサーバーへの自動同期。
/a	保存された優先サーバーへの自動同期。
/save	ユーザー情報の保存および終了。
/proxy: (proxy_server) [:port]	特定のプロキシ・サーバーおよびポートによる接続。
/ssl	SSL 暗号化による同期。
/cast5	CAST5 暗号化による同期。
/force	強制リフレッシュ。
/noapp: (application_name)	特定の Web-to-Go アプリケーション・データを同期せずに、他のアプリケーションと同期する。
/nopub: (publication_name)	特定のパブリケーション・データを同期せずに、他のパブリケーションと同期する。
/notable: (table_name)	特定の表データを同期せずに、他の表と同期する。
/notable: (odb_name) . (table_name)	
/onlyapp: (application_name)	特定の Web-to-Go アプリケーション・データのみ同期し、他のアプリケーションとは同期しない。
/onlypub: (publication_name)	特定のパブリケーション・データのみ同期し、他のパブリケーションと同期しない。
/onlytable: (table_name)	特定の表データのみ同期し、他の表と同期しない。
/onlytable: (odb_name) . (table_name)	

DataException は、同期に障害が発生した場合にスローされます。同期を行う前にすべてのデータベース接続をクローズする必要があることに、注意してください。

制限事項

このリリースの ADO.Net プロバイダでは、**GetSchemaTable** は部分データのみ返します。たとえば、すべての列が主キーであることを要求し、一意制約をレポートせず、**BaseTableName**、**BaseSchemaName** および **BaseColumnName** に対して NULL を返します。Oracle Lite メタデータ情報を取得するには、このコールのかわりに **ALL_TABLES** および **ALL_TAB_COLUMNS** を使用することをお勧めします。

ベース・オブジェクト・タイプとしてのビューの追加

このリリースでは、ベース・オブジェクト・タイプとしてビューを定義できるビュー機能がサポートされます。「パッケージ・ウィザード」により、親ヒント、仮想プライマリ・ヒントおよび主キー・ヒントを指定できます。以降の項では、ベース・オブジェクト・タイプとしてビューを指定する方法を説明します。

レプリケーション用スナップショットの定義

「スナップショット」ダイアログを使用して、アプリケーションのレプリケーション・スナップショットを作成できます。スナップショットの名前は、表またはビューのようなデータベース・オブジェクトと同じでなければならず、また、すべてのアプリケーションにわたって一意である必要があります。ただし、データベース・オブジェクトを作成する際、確実に一意の名前を使用する必要があります。「パッケージ・ウィザード」では、多数のプラットフォームに対してスナップショットを作成できます。ベース・オブジェクト・タイプとしてビューを指定する場合、「パッケージ・ウィザード」では、親ヒント、仮想プライマリ・ヒントおよび主キー・ヒントを指定できます。Web-to-Go では、Windows 32 プラットフォームを使用します。

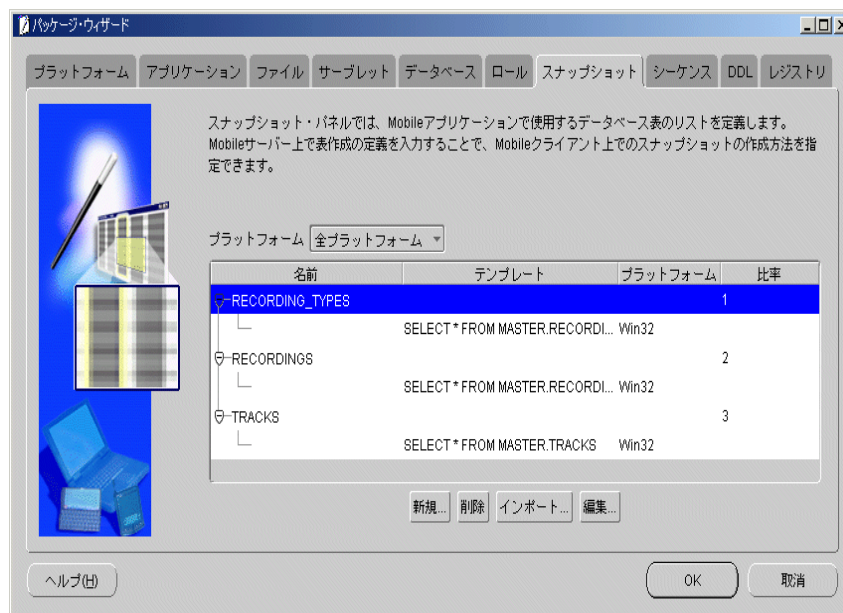
注意： データベース接続は、一度指定すると「パッケージ・ウィザード」の残りのセッションでも使用されます。Oracle database と Oracle Lite database を切り替える必要がありますが、すでに接続が確立されている場合は、パッケージ・ウィザード・アプリケーションを完全に終了して、再度 **wtgpack.exe** を実行します。

「スナップショット」ダイアログに含まれるフィールドは次のとおりです。

フィールド	説明	必須
名前	Web-to-Go アプリケーションに関連付けられるスナップショットの名前。 基盤となるデータベース・オブジェクトと同じ名前である必要があります。	<input type="radio"/>
テンプレート	利用可能なスナップショット・テンプレートのリストです。テンプレートとは、スナップショットの作成に使用される SQL 文です。テンプレートには変数を含められます。テンプレートを Mobile Server にパブリッシュした後は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、ユーザー固有のテンプレート変数を指定できます。ただし、Mobile サーバー・コントロール・センターでスナップショットは変更できません。	<input type="radio"/>
プラットフォーム	スナップショットのプラットフォームです。Web-to-Go には、Win32 を使用します。ユーザーは異なるプラットフォームに対してスナップショットを作成できます。クライアントのデータを同期した場合、クライアント・アプリケーションを実行中のプラットフォームに適したスナップショットのみが取得されます。	
比率	表のレプリケートの順序です。マスター / デティール関係を持つ表の場合、マスター表は最初にレプリケートする必要があるため、低い比率を持たせます。	

フィールド	説明	必須
プラットフォーム	<p>現在のスナップショットのプラットフォームのドロップダウン・リストです。ドロップダウン・リストには、次のプラットフォームをすべて含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Win32 ■ Windows CE ■ 全プラットフォーム <p>ドロップダウン・リストからプラットフォームを選択すると、そのプラットフォーム用のスナップショットのみが「スナップショット」ダイアログに表示されます。たとえば、「全プラットフォーム」ドロップダウン・リストから「Win32」を選択すると、Win32 ベースのスナップショットのみが表示されます。ドロップダウンから「全プラットフォーム」オプションを選択すると、現在使用中のプラットフォームごとにすべてのスナップショットが表示されます。ユーザーが新規のスナップショットを追加した場合、ドロップダウン・リストには追加のプラットフォームがリストされます。</p>	

図1 スナップショット・ダイアログ



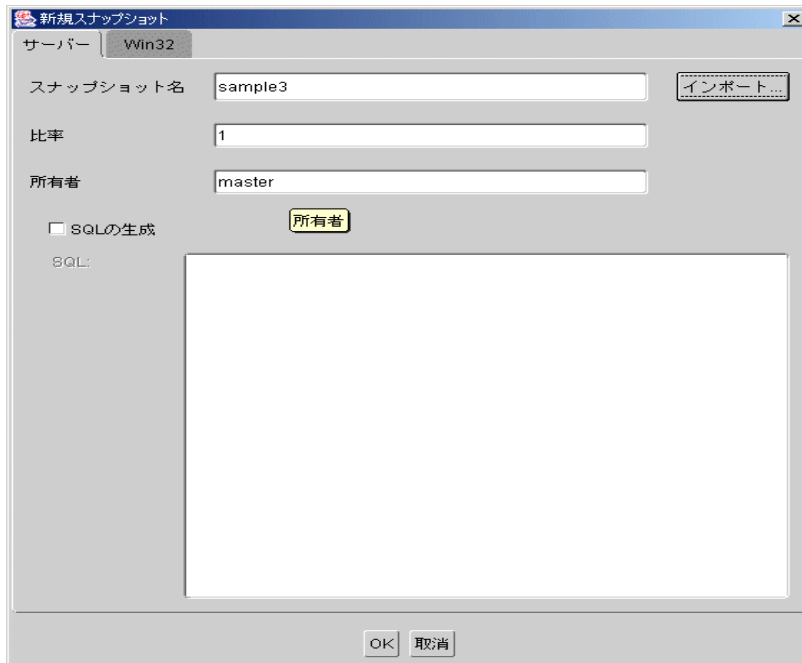
「スナップショット」ダイアログで「新規」ボタンまたは「削除」ボタンをクリックすると、「スナップショット」ダイアログにスナップショットを追加または削除できます。「インポート」または「編集」ボタンをクリックして、スナップショットをインポートまたは編集することもできます。

注意：「スナップショット」ダイアログから複数のスナップショットをインポートできますが、「新規表」ダイアログから新規表を作成するときにインポートできるスナップショットは1つのみです。

新規スナップショットの作成

新規スナップショットを作成するには、「新規」ボタンをクリックします。「新規スナップショット」ダイアログが表示されます。図2に示すように、「サーバー」タブをクリックすると「サーバー」ダイアログが表示されます。このダイアログには、スナップショット名、比率、所有者およびSQLを入力するフィールドと、SQLを生成するためのチェック・ボックスが含まれています。

図2 「新規スナップショット」ダイアログ: 「サーバー」タブ

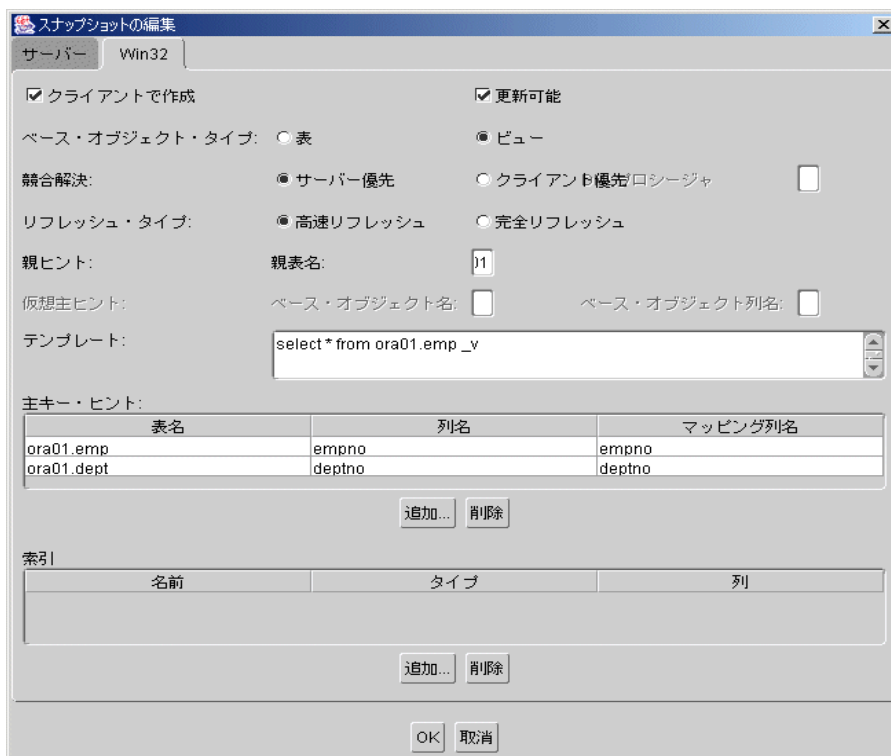


適切な情報を入力して、新しいスナップショットを作成します。「スナップショット名」フィールドに入力する名前は、基盤となるデータベース表名を示します。

「SQLの生成」を有効にする場合、データベース表を構成する CreateTable SQL 文を指定する必要があります。「SQL」フィールドに SQL 文を入力します。定義作業の最後に、SQL ファイルを生成するオプションがあります。

Web-to-Go 用 Mobile クライアントの場合は、「Win32」タブを使用します。「Win32」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。

図3 「スナップショットの編集」ダイアログ: 「Win32」タブ



「新規スナップショット」ダイアログで次の機能を変更して、Web-to-Go 用 Mobile クライアントに新規スナップショットを作成します。

機能	説明
更新可能	このチェック・ボックスを選択すると、名前付きの表の更新可能スナップショットが作成されます。
テンプレート	名前付きの表のスナップショット・テンプレートを表示します。スナップショット・テンプレートは変更できます。管理者は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、複数の異なるユーザー用変数のインスタンスをこのテンプレートに生成できます。

スナップショットの索引の作成

「パッケージ・ウィザード」を使用してスナップショットの索引を作成するには、次の手順を実行します。

1. 「スナップショット」ダイアログ (図 1「スナップショット・ダイアログ」) から「編集」ボタンを選択して、既存のスナップショットから索引を作成します。スナップショットおよび索引を新規作成する場合は、「新規」ボタンを選択します。
2. 表示されるダイアログでプラットフォーム・タブ (たとえば、Win32) を選択します。スナップショットを定義している SQL 文が「テンプレート」フィールドに表示されます。その下に「索引」表があります。新規索引を作成するには、この表の下にある「新規」ボタンを選択します。

図 4 は、「スナップショットの編集」ダイアログの「Win32」タブを示します。

図 4 「スナップショットの編集」ダイアログ: 「Win32」タブ

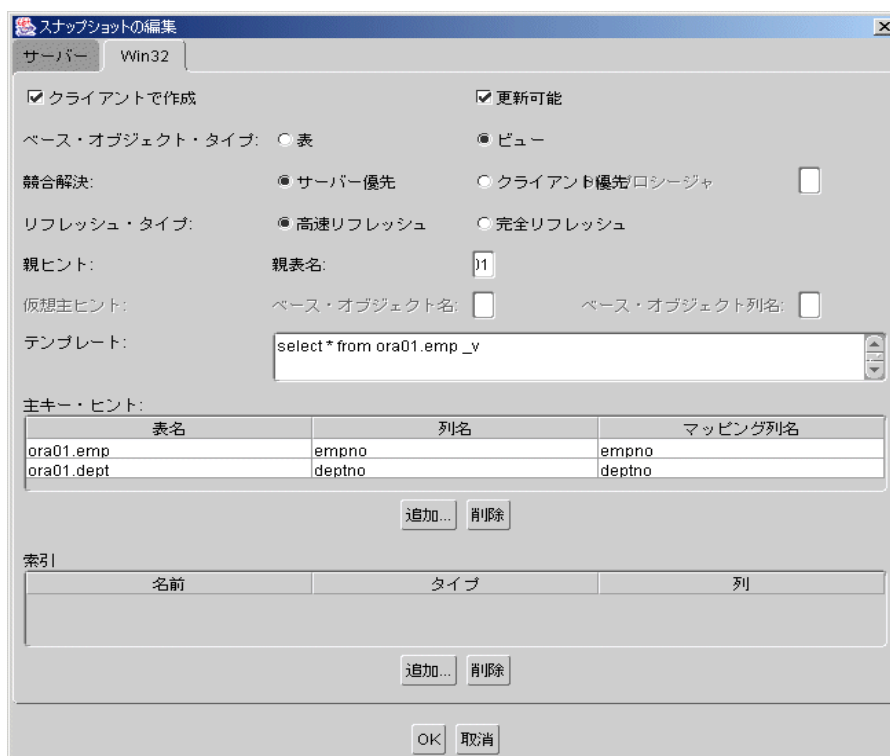


表 2 は、「スナップショット」ダイアログの「Win32」タブで入力する必要がある値の説明です。

表2 「Win32」 タブの説明：「スナップショットの編集」ダイアログ

フィールド	説明
クライアントで作成	このフィールドを選択した場合、クライアント・マシン上にスナップショットが作成されます。
更新可能	このフィールドを選択した場合、指定された表またはビューの更新可能なスナップショットが作成されます。
ベース・オブジェクト・タイプ	「表」を選択して、表をベース・オブジェクト・タイプとして含めます。 または 「ビュー」を選択して、ビューをベース・オブジェクト・タイプとして含めます。
競合解消	「サーバー優先」を選択して、サーバーのために競合解消を指定します。 または 「クライアント優先」を選択して、クライアントのために競合解消を指定します。
DML プロシージャ	DML プロシージャを指定するには、DML オペレーションの Callout Package の名前を入力します。
リフレッシュ・タイプ	「高速リフレッシュ」を選択して、スナップショットの高速リフレッシュを指定します。 または 「完全リフレッシュ」を選択して、スナップショットの完全リフレッシュを指定します。
親ヒント	親ヒントを指定するには、「親表名」を入力します。
仮想主ヒント	仮想主ヒントを指定するには、対応するフィールドで「ベース・オブジェクト名」および「ベース・オブジェクト列名」を入力します。
テンプレート	名前付きの表のスナップショット・テンプレートを表示します。スナップショット・テンプレートは変更できます。管理者は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、複数の異なるユーザー用変数のインスタンスをこのテンプレートに生成できます。
主キー・ヒント	このセクションには、スナップショットの「表名」、「列名」および「マッピング列名」が表示されます。
索引	このセクションには、スナップショットで使用される索引の「名前」、「タイプ」および「列名」が表示されます。

3. 「索引」表には、次の3列があります。

- 名前 — 索引の名前です。
- タイプ — 索引のタイプは「通常」、「一次」または「一意」になります。このタイプを選択するためのドロップダウン・メニューがあります。
- 列 — 索引で使用する列名を入力します。

スナップショットのインポート

Oracle database または Oracle Lite データベースからスナップショットをインポートするには、「インポート」ボタンをクリックします。接続を指定していない場合は、データベース接続ウィンドウが表示されます。

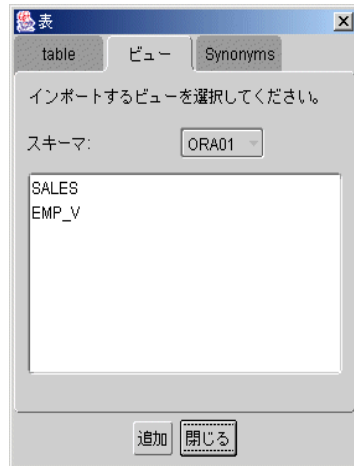


スナップショットのインポート元の Oracle database または Oracle Lite データベースのユーザー名、パスワードおよびデータベース URL を入力します。「表」ウィンドウが表示されます。

注意： Oracle database のデータベース URL を入力するときは、次のフォーマットを使用します。jdbc:oracle:oci8:@webtogo.world Oracle Lite の場合は、jdbc:polite:webtogo を使用します。

図 5 は、「表」ダイアログを表示します。

図 5 「表」ダイアログ

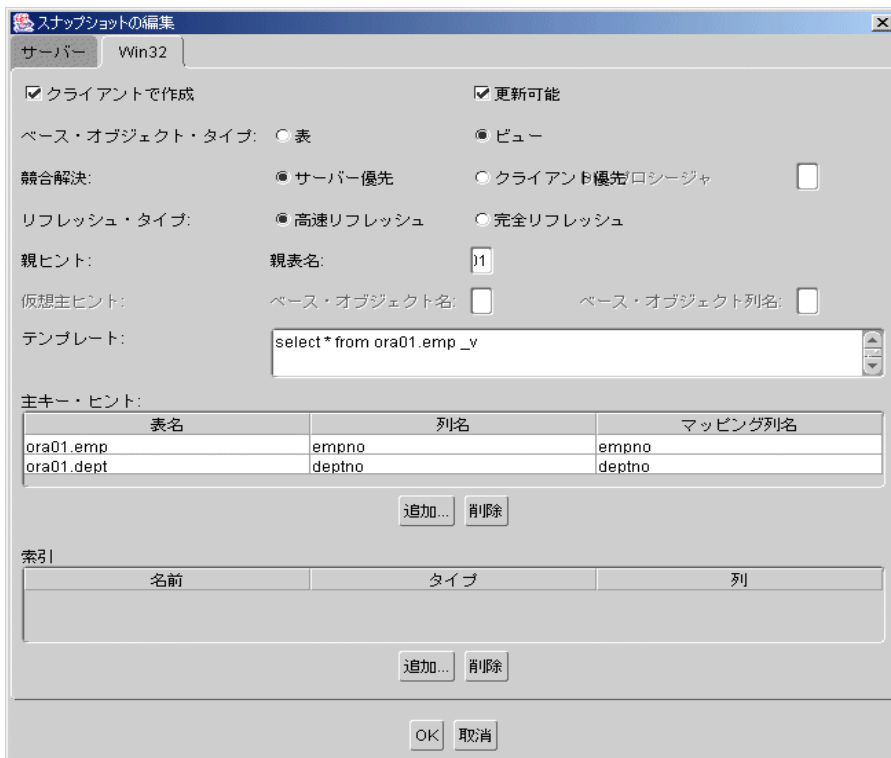


「スキーマ」リストをクリックして、表示されたリストから必要なスキーマを選択します。「表」ダイアログには、選択したスキーマに関連付けられるビューが表示されます。インポートする必要があるビューを選択します。「追加」をクリックして、「閉じる」をクリックします。

スナップショットの編集

スナップショットを編集するには、「スナップショット」ダイアログからスナップショットを選択し、「編集」をクリックします。「スナップショットの編集」ダイアログが表示されます。

図 6 「スナップショットの編集」ダイアログ: 「Win32」タブ



スナップショットを編集するには、「スナップショットの編集」ダイアログ・ボックスの次の機能を変更します。

機能	説明
クライアントで作成	このチェックボックスを選択すると、Web-to-Go 用 Mobile クライアント上のスナップショットを編集できます。
更新可能	このチェック・ボックスを選択すると、名前付きの表の更新可能スナップショットが作成されます。
テンプレート	名前付きの表のスナップショット・テンプレートを表示します。スナップショット・テンプレートは変更できます。管理者は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、複数の異なるユーザー用変数のインスタンスをこのテンプレートに生成できます。

eMbedded Visual Basic (eVB) の不具合の回避策

Microsoft eVB の不具合により、Windows CE アプリケーションで eVB の実行中にグローバル変数の eVB 値 (Oracle9i Lite のフィールド・オブジェクトに割り当てられる) が変更されてしまいます。これは Oracle9i Lite OLADOCE ではなく、Microsoft の不具合です。

Oracle では、POLITE.txt ファイルに 1 つのフラグを追加することによってこの問題を防ぐように、次の回避策を提供しています。

POLITE.txt ファイルの「全データベース」セクションに次の行を追加します。

```
OLADOCEAdd1MoreRef=yes
```

検索条件の okCreateIterator 回避策

Palm 上で、okCreateIterator は検索条件構成を変更します。これは、文書化されていません。回避策としては、コールする前に検索条件のコピーを作成します。属性値のコピーは必要ありません。

Palm 上での HotSync による HTTP トランスポートの構成

『Oracle9i Lite Developer's Guide for Palm』の 5.3.2.5 項「Configuring HTTP Transport with HotSync」に次の修正を行う必要があります。

プロシージャのステップ 2 を削除します。記述されているとおり、conshttp.dll ファイルをコピーしないでください。示されているように、conshttp_reg.exe を実行してステップ 3 を行います。

Windows CE アプリケーション・ファイルのダウンロード

同期プロセスの間、Oracle9i Lite は WCE/Pocket_PC/ja/ARM フォルダにある Windows CE アプリケーションのバージョンのみダウンロードします。そのフォルダにあるのは、アプリケーションの 1 つのバージョンのみです。Pocket PC 2002 と Pocket PC 2003 バージョンには相違はありません。このため、モバイル・サーバー・リポジトリに、同一のアプリケーションの Pocket PC 2002 および Pocket PC 2003 の両バージョンを持つことはできません。

Pocket PC 2003 用モバイル・クライアント

モバイル・クライアントのダウンロード・ページ (モバイル・クライアントをダウンロードするためのセットアップ・ページ) では、Windows Mobile 2003 用モバイル・クライアント (Pocket PC 2003) のリンクは Pocket PC 2003 XScale プロセス用のみです。

モバイル・クライアントのダウンロード・ページの PocketPC MIPS での Windows CE 3.00 用モバイル・クライアント用リンクは、Pocket PC 2003 ARM での Oracle Lite ベースのプロセッサの実行にも使用できます。

修正済の不具合

このリリースの修正済の不具合のリストは、bugsfixed.htm ファイルを参照してください。このファイルは、ドキュメント・ディレクトリの bugs fixed という名前のフォルダ内にあります。

すべてのドキュメントは、index.htm という名前のトップレベルのドキュメント・メニューのリンクからアクセスできます。これは、ドキュメント・ディレクトリ内にあります。

